

施策体系	基本目標	3. 大牟田市へ新たな人の流れをつくる
	施策名	1. 移住・定住の促進

◆総合戦略における指標(KPI)

指標	年度		28年度	29年度	30年度	R元年度
			移住相談の件数(件)	目標値	50	50
(31年度目標値の設定の考え方) H26年度実績34件を前提に、対応強化によりそれを上回る件数を目標とする。	実績値	46	72	61	90	
	達成度	92.0%	144%	122%	180.0%	

指標達成度に関する要因分析	施策効果	今後の方向性
電話や来所等による相談対応を行うとともに、県相談窓口や移住促進住宅情報提供ネットワーク登録事業者と連携した移住希望者への情報提供を行いました。また、各種ホームページへの情報掲載やおおむた移住定住サポート会議において、委員と連携して「お試し居住」、SNSでの魅力発信のほか、市内のイベント等にて市民向けに移住者への理解促進、活動PRを行いました。移住定住イベントに3件参加し、イベント当日以外にも、後日参加者に向けた定期的な情報発信などの取り組みにより目標を上回る90件となりました。	順調	県移住相談窓口と連携を図った都市圏(東京・福岡)での移住相談のほか、SNSや移住検討者が参加する移住定住イベント等で大牟田の魅力積極的に発信し、本市の暮らしやすさをPRしていきます。2年間でお試し居住利用後7組が移住を決定するなど、お試し居住や国や県のHP等をきっかけにお問合せいただく相談件数も増加していることから、引き続き移住体験やHP、SNSを通じたPRなどを通して本市の魅力を知っていただく機会を創出し、移住を促進します。

構成事業名	事業内容	指標名(単位)	目標値 実績値 達成率	R元年度取組みの実施状況	進捗状況	今後の方向性	
移住定住促進事業	国や福岡県、筑後田園都市推進評議会等が実施する移住定住に向けたイベント等へ出展します。	移住相談件数(件)	50	H30年度にリニューアルした移住生活ガイドブックを移住相談窓口への設置、各種イベントでの配布などを行いました。また、国、県等ホームページへの情報掲載、移住定住イベントへの参加等、移住希望者への相談に対応しました。さらには、ちくごインターンシップで若年層へ本市の魅力を発信しました(計12社が7人の学生を受入れ)。おおむた移住定住サポート会議では、魅力的な景色や移住に活用できる制度などをSNSで紹介し、お試し居住は40組が利用。うち7組24人(累計)が本市へ移住を決定しました。市内7つの高校の代表生徒で構成する「高校魅力化プロジェクトチーム」において、若者目線で本市の魅力発信する情報発信サイトの運営、地域で頑張る人や企業を知る地域協働型体験プログラム等を実施しました。	順調	継続	・移住希望者の相談対応、住まいや仕事に関する情報発信を行います。 ・お試し居住を実施し、子育て世帯等の移住促進を図ります。またイベントを企画運営し、移住促進をPRします。 ・筑後田園都市推進評議会でのインターンシップを引き続き実施し、学生に市内企業、本市の魅力PRします。
			90				
			180.0%				
UIJターン若者就職奨励金事業	市外からの転入者を採用した市内企業に対して、住宅手当支給に対する補助を行います。	交付対象者(UIJターン若者)の新規登録人数(人)	8	交付対象者8人の登録を行い、H29年度及びH30年度の登録者8人に奨励金を交付しました。ホームページや広報おおむた、各種団体や協議会への説明などにより、市民や市内の事業所への周知を図りました。また、市外に向けては、ふくおかよかとこ移住相談センター等と連携して情報発信を行うとともに、他の事業と連携して大学、短大等へチラシを送付するなど、積極的に広報活動を行いました。	順調	継続	市内事業所への就業や市内への定住の動機づけとなるよう、引き続き、市内外への広報活動を積極的に行います。広報活動を行うに当たっては、同様に市内事業所への就業や市内への定住を目的としているおおむた100若者未来応援事業と一体的に行います。
			8				
			100.0%				

【再掲】ほっと安心奨学金制度事業	《基本目標1「4. 高等教育機関等との連携」参照》
【再掲】多世帯同居おうえん大作戦事業	《基本目標5「1. 人にやさしい住まい・住環境の形成」参照》
【再掲】魅力ある市営住宅入居促進事業	《基本目標5「1. 人にやさしい住まい・住環境の形成」参照》

施策体系	基本目標	3. 大牟田市へ新たな人の流れをつくる
	施策名	2. シティプロモーションの推進

◆総合戦略における指標(KPI)

指標	年度		28年度	29年度	30年度	R元年度
			28年度	29年度	30年度	R元年度
本市がテレビや雑誌で紹介された回数(回)		目標値	12	24	36	50
(31年度目標値の設定の考え方) 週1回程度の紹介を目標とする。 [現状値:-]		実績値	16	35	49	53
		達成度	133.3%	145.8%	136.1%	106.0%

指標達成度に関する要因分析	施策の進捗	今後の方向性
「おおむたの魅力発信事業」「メディアを活用した情報発信事業」においては、映画「いのちスケッチ」のPR活動を積極的に行った結果、メディアに取り上げられる機会が増え、指標の目標達成に大いに貢献することができました。メディアに取り上げられた素材は、映画や動物園、大蛇山まつり、世界遺産のほか、地元高校生の活躍、認知症への取組み、飲食店の紹介など幅広い分野にわたりました。このことは、「おおむたの魅力創出事業」において本市の魅力となる情報を収集し、メディアに取り上げられやすいように工夫をして発信した成果でもあると考えます。福岡県内の市町村を紹介するテレビ局の取組みにより、本市の魅力を紹介できたことも本市の知名度を向上させることに繋がりました。	順調	「メディアを活用した情報発信事業」「おおむたの魅力発信事業」においては、全庁的組織である「プロモーション活動推進委員会」を活発化させ、各部署からの積極的な情報発信を促します。そのためにもプロモーション活動に必要なスキルの向上を図り、職員の意識啓発及び研修を実施します。「ジャー坊」を活用するとともにSNSやメディア等様々な媒体を活用することで市内外へ広く情報発信することにより、地域住民の愛着の醸成はもとより、本市の知名度とイメージの向上に努めます。

構成事業名	事業内容	指標名(単位)	目標値 実績値 達成率	R元年度取組みの実施状況	事業の進捗	今後の方向性
おおむたの魅力発信事業 《地方創生加速化交付金対象事業》	本市が有する様々な魅力を市内外へ発信し、定住人口や交流人口の増加につなげるためのシティプロモーション戦略を策定し、様々なメディアを活用した情報発信や大牟田キューピッツなどに取り組みます。	大牟田PRパンフレット等の配布数(部)	25,000	映画「いのちスケッチ」の公開に合わせて、フリーペーパー、「いのちスケッチ学習帳」を作成し、市内外で幅広く配布しました。また、市の公式キャラクター「ジャー坊」を活用して、本市の魅力をPRしました。さらには、プロモーション活動推進委員会を開催し、庁内のプロモーション活動を推進するとともに情報共有を図りました。	順調	充実
			26,158			
			104.6%			
メディアを活用した地域情報発信事業 《地方創生加速化交付金対象事業》	コミュニティFMを活用し、大牟田市の行政情報・観光情報等を発信します。	コミュニティ放送局に行政情報を提供した課・室の数(課)	67	庁内67課室中61の課室が、「FMたん」とを情報発信に活用しました。KBC九州朝日放送「ふるさとWish」では、本市の魅力を計47回(テレビ26回、ラジオ21回)放送しました。また、映画「いのちスケッチ」のテレビCMを62回放送しました。あわせて、記者クラブに対して随時情報提供を行い、テレビ局や新聞社と連携した情報発信を行いました。	やや遅れ	改善
			61			
			91.0%			

施策体系	基本目標	3. 大牟田市へ新たな人の流れをつくる
	施策名	3. ひとを呼ぶ新しいにぎわいの創出

◆総合戦略における指標(KPI)

指標	年度	年度			
		28年度	29年度	30年度	R元年度
主要観光施設(動物園、石炭産業科学館、観光プラザ)の利用者数(千人)	目標値	260	265	270	325
(31年度目標値の設定の考え方) 現状値から年間2%の伸びを目標とする。 [現状値:250千人(H26年度実績)]	実績値	316	312	308	290
	達成度	121.5%	118%	114%	89.2%

指標達成度に関する要因分析	施策の進捗	今後の方向性
動物園の入園者は、約21万7千人となりました。映画「いのちスケッチ」公開後は増加しましたが、大型連休等の天候不良や新型コロナウイルスの影響により、H30年度に比べ減少しています。石炭産業科学館は、H30年12月からH31年3月までの更新工事が終了し、来館者が回復したため、新型コロナウイルスの影響はあったものの、約2千人増の1万8千人となりました。今後、更なる世界遺産ガイド機能の充実を図ることが必要です。観光プラザの入館者数は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、3月の利用者数が大きく落ち込んだことから、5万5千人となりH30年度より1千人の減となりました。	順調	新型コロナウイルス感染拡大に伴い観光業への影響が懸念されます。施設における感染拡大防止対策を推進し、観光振興を進めていきます。また、オンラインによる情報発信などに取り組み、国や県の動向も見ながらwithコロナにおける観光振興の回復を目指します。動物園では、飼育動物の展示計画などについて動物園職員との協議を行っているところです。休憩室等の機能を備えた「ともだちや絵本美術館」を整備することで、動物園の魅力を上向き、更なる来園者の増加につなげます。世界文化遺産や動物園、おむた「大蛇山」まつりなど、本市への集客力の高い施設や催し等を活用し、効果的な情報発信により、交流人口の増加につなげます。あわせて、観光基本計画を策定し、本市の観光ビジョンを描いていきます。

構成事業名	事業内容	指標名(単位)	目標値 実績値 達成率	R元年度取組みの実施状況	事業の進捗	今後の方向性	
観光プロモーション事業 《地方創生加速化交付金対象事業》	旅行会社向けの説明会や相談会へ参加し、観光客の増加に向けたプロモーション活動を実施します。	各種プロモーション回数(回)	8	観光客の誘致に向け、九州観光推進機構が主催する旅行会社向けの観光素材説明会(大阪、福岡)に参加し、本市のプロモーション活動を行いました。この他、西鉄観光活性化協議会と連携し、福岡市、太宰府市、久留米市での共同PR、JRちくご観光連絡会と連携し、熊本駅、鹿児島中央駅でのサンプリング活動等を実施しました。11月には大牟田市動物園を主な舞台とした映画「いのちスケッチ」が全国公開され、映画効果による動物園の来園者増加もみられました。また、新たな観光素材として、刀剣関連は旅行会社から高い評価を受けています。さらにH31.3月には西鉄観光列車の運行開始にあわせ大牟田駅西口に路面電車204号を設置し、市外からの観光客だけでなく、市内においても、新たな観光資源の一つとして注目を浴びています。	順調	継続	R2年度はイベント等における積極的なプロモーション活動が難しいと予想されるため、オンラインなどを通じた情報発信を実施し、観光プロモーションに取り組みます。
			10				
			125.0%				
観光商品開発事業 《地方創生加速化交付金対象事業》	市内における消費拡大や地域活性化につながるよう、幅広い関係団体の参画・連携のもと(仮称)大牟田観光事業推進協議会を立ち上げ、観光商品を開発します。	観光商品開発件数(件)	3	市内をはじめ、北九州市のイベント出展や雑誌掲載などで本市観光のPRを行ったほか、刀剣イベント、体験プログラム、鉄道事業者と連携したおもてなしイベントを実施しました。また、これまでの協議会の活動を踏まえた本市観光振興に関する要望書及び活動報告書を作成し、市への提出を行いました。	やや遅れ	終了	今後策定を予定している観光基本計画の中で位置づけを行う新たな観光推進組織の設立までの間、これまでの協議会の事業を継承する組織を立ち上げ、継続した取組みを行います。
			1				
			33.3%				

観光資源活用事業	大蛇山まつりをはじめ各種イベントに対する支援や、さまざまなメディアを活用した情報発信を行います。あわせて、外国語パンフレットの作成・配布を行います。	情報誌等への掲載数(回)	66	H30年度にリニューアルした「観光パンフレット」の英語版を作成し、外国からの観光客に向けた取組みを行いました。 おおむね「大蛇山」まつりに関しては、まつり当日に動画配信を行ったり、熊本の復興支援に向け「祭りアイランド九州」に出展しました。 本市動物園を舞台とした映画「いのちスケッチ」と連携した動物園のPRや、三池港の夕日を捉えた光の航路など、世界遺産に関連した観光資源のPRを行いました。 このほか、本市の持つ観光資源について、ラジオや雑誌、TVなどのメディア利用した広報活動を行うことで多くの人への広報活動を行いました。	順調	継続	海外からの観光客に備え、英語版パンフレットに加え、台湾語・中国語・韓国語に訳したものを作成します。 新型コロナウイルスの影響により、イベント等が実施できない時期があったため、オンラインでの動物園訪問など、新たな生活様式を踏まえた観光資源の活用を実施します。
			139				
			210.6%				
観光おもてなし事業 《地方創生加速化交付金対象事業》	観光客の受け入れ体制の充実を図るため、観光ボランティアガイドや石炭産業科学館のボランティアガイドを育成します。	ボランティアガイド新規登録者数(人)	3	世界文化遺産施設等への来訪者に向けて、三池炭鉱の歴史や施設の価値を深く理解してもらうための常設ガイドを配置しています。また、一般社団法人大牟田観光協会と連携し、観光ボランティアガイドの育成・確保に取り組んでいます。 シルバー人材センター、観光ボランティアガイド、石炭産業科学館でそれぞれ養成講座等を実施し、ガイドの確保及びガイド技術の向上を図っています。	順調	継続	引き続き、ガイドの確保や育成に取り組むとともに、ガイド研修を通じ、来訪者へのおもてなしの向上につなげます。
			6				
			200.0%				
競技スポーツ振興・支援事業	スポーツ都市宣言推進協議会や体育協会をはじめとする各種団体と連携し、各種スポーツ大会の奨励、トップレベルの競技大会の誘致などを進めます。	県民体育大会(秋季大会)5位以内入賞(位)	5	全九州都市対抗陸上競技大会(4月)及び広域スポーツ大会(通年)への支援を行いました。また、福岡県民体育大会(夏季、秋季、冬季)へ選手団を派遣しました。	やや遅れ	継続	全九州都市対抗陸上競技大会及び広域スポーツ大会は、市外から広く参加があり、スポーツ振興とともに地域活性化にもつながることから継続して支援します。また、県民体育大会(秋季)は5位以内を目標に選手層の充実と発掘に努めます。
			7				
			-				
近代化産業遺産活用事業 《地方創生加速化交付金対象事業》	世界文化遺産登録により増加する来訪者への対応のためのガイドやスタッフの配置、パンフレットの作成とともに、世界遺産関連施設の価値の普及啓発のためのセミナー等を開催します。	市民理解度(%)	96.0	市内の全小学校19校の6年生を対象に近代化産業遺産のバス見学会を実施し理解促進を図りました。「三池炭鉱へようこそ」事業を実施し、宮原坑のガイドウォークや発掘現場説明会、旧長崎税関でのクラシックコンサート、ジャズコンサートを開催し世界遺産を身近に感じてもらう様々な取組みを行いました。昨年度に引き続き、近代化産業遺産ホームページへの施設の公開情報やイベント案内等の掲載、来訪者への「三池炭鉱ナビ」による施設案内など、資産の理解促進に資する取組みを行いました。資産への関心の高まりや愛着を深めるため、宮原坑や三川坑において、地域の人たちと花植えを行うなど、協働による環境美化活動を行いました。「三池炭鉱跡の保存・公開・活用に関する計画」に基づき、宮原坑や専用鉄道敷跡で調査等を実施しました。	やや遅れ	改善	旧長崎税関のジャズコンサートなどは、近代化遺産の建物の雰囲気を活かした文化芸術動を行うことができました。このように郷土の歴史的価値を発信するのみならず、文化財の特色を活かした事業展開が必要です。「三池炭鉱跡の保存・公開・活用に関する計画」に基づき、着実に整備等を進めます。
			89.2				
			92.9%				
世界遺産ガイダンス機能整備事業	石炭産業科学館の世界文化遺産の価値などの展示説明を行うガイダンス施設としての機能を高めるため、必要とされる整備を行います。	展示内容の検討(一)	検討	H29・30年度に「世界遺産」ガイダンス展示基本計画を策定しました。その中で示された整備内容を整理し、緊急性の高い内容から順次整備を進めていきます。 世界遺産「明治日本の産業革命遺産」の世界遺産価値を統一的に示すいわゆる「共通展示」について、国、関係自治体とも協議・連携し、展示項目を整理した「共通仕様」の作成を進めました。	順調	継続	石炭産業科学館において、世界遺産ガイダンス施設の整備を進めます。
			実施				
			-				